

## < はじめに >

○これまで、大阪市内の歴史について、「中之島」地区を皮切りに、市内中心部における各地域毎の”今昔(むかしといま)”をまとめてきたが、今回はその第6弾(最終回)として、市内東北部にあたるJR大阪環状線沿いの「天満」・「桜宮」・「京橋」地区の今昔をまとめることとした。

<参考> これまでに取り上げた『今昔』シリーズ

- (1) 『「中之島」今昔』 … 平成17年12月
- (2) 『「堂島・船場」今昔』 … 平成19年6月
- (3) 『「谷町・上町地区」今昔』 … 平成30年12月
- (4) 『「大阪ミナミ」今昔』 … 令和2年6月
- (5) 『「天王寺・住吉」今昔』 … 令和2年9月

○「天満地区」は、古くから「大阪天満宮」を中心として栄えてきた地域で、江戸時代には大坂三郷のひとつである「天満組」として位置づけられ、大阪の歴史を語る上で、はずすことが出来ない地域と言える。

また、東部の大川左岸(西側)沿いは、明治初期に「造幣寮(局)」が設置され、その南側にあった工場跡地は、平成に入って再開発され、「大阪アメニティパーク(OAP)」として、大きく様変わりした。

○次の「桜宮地区」は、現「都島区」の東部にあたり、かつては近郊農業が中心であったが、明治・大正期には北部に大工場が設置され、昭和期以降は、そうした工場跡地を含めて住宅地として変容を遂げてきた。なお、西部の大川沿いについては、古くからの寺社も残されており、独自の移り変わりが見られる。

○3つ目の「京橋地区」は、かつて「京街道」の沿線として発展してきた地区であるが、その後、JR環状線と京阪電鉄が交わる交通の要衝として新しい街づくりが進み、大阪の”キタ”と”ミナミ”に対し”ヒガシ”と称される庶民の歓楽街として、その名が知られるようになった。また、地区南側に広がる広大な旧「大阪砲兵工廠」跡地は、戦後、「大阪ビジネスパーク(OBP)」として、超高層ビルが連なるビジネス街に変容している。

なお、江戸時代の大坂の発展に大きな役割を果たした「京街道」についても、最後に、参考として記しておくこととする。

・ところで、東京にも「京橋」と名が付く地域があるので、参考にその概要を記しておきたい。「東京都中央区京橋1～3丁目」で、かつて、江戸城の外堀にあたる「京橋川」に「京橋」が架かっており、「日本橋」を起点とする「東海道」の2つ目の橋で擬宝珠がある公儀橋であった。大阪と同じく、「京橋川」は埋め立てられて高速道路になっているが、「京橋」の親柱が保存されており、現在は、東京メトロ銀座線「京橋駅」にその名をとどめている。(恐らく、東海道で京に続く橋としてその名が付いたものではないかと推測される。)